



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

東京支部発足  
80周年!

2021. 11. 01  
第78号

今年度の聖句

主は人の一歩一歩を定め、御旨にかなう道を備えて下さる。  
人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえてくださる。(詩篇 37:23-24)

## 北米での映画上映について

竹内 道 (高26回)

秋になり、ブロードウェイの劇場やメトロポリタン・オペラハウスは上演を再開。慎重に、懸念感をもちながらも、ニューヨーク市は着実に活発化しています。

2020年の2月より、新型コロナウイルスの蔓延のため、私たちの日常は一変しました。自宅での隔離を余儀なくされ、人が集うイベントはすべて延期、キャンセルされました。私たちの映画、「ヒロシマへの誓い、サーロー節子とともに」の北米での公開も残念なことに、予定がすべて崩れてしまいました。3月にはアメリカの主要映画祭であるクリーブランド国際映画祭に招待されていましたが、映画祭は中止という連絡を救急車のサイレンが鳴り響くマンハッタンのが家で受け、深いため息をつきました。

被爆後76周年となる今年の8月は、コロナ禍に負けてはならじ!と、映画をオンライン上にて上映することを計画。サーロー節子さんが共に活動をされている WILPH (婦人国際平和自由連盟) などカナダの4つの著名な平和活動団体の主催で、8月8日にカナダでのプレミア上映が実現できました。続いて、8月9日にはノーベル平和賞受賞団体である、IPPNW アメリカ (核戦争防止国際医師会議) が主催で同団体の医学生会員のためのオンライン上映会が開催され、5か国からの医学生を交えた活発なパネルディスカッションにはサーローさんにもご参加いただきました。

また、10月初旬にはフィラデルフィアから車で約2時間の場所で開かれる Reading Film Fest (レディング映画祭) の招待作品として、いよいよ、映画館での上映の運びとなりました。まだまだコロナ禍の影響があり、映画祭への参加者数は通常より少なかった

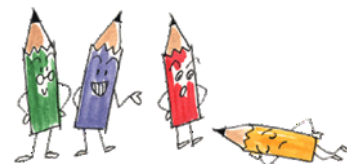
たのですが、上映後の質疑応答では積極的に質問がでて、「鼓舞された」「これからの展開はどうするの?」など生の声が聞けました。嬉しい気持ちでニューヨークへ戻ると、映画祭より、今年の Best



Female Filmmaker Award (女性フィルムメーカー最優秀賞) を受賞したという連絡が入っていて、驚き、歓喜しました。試行錯誤の映画製作でしたが、この映画を作って本当に良かったと思った瞬間でした。日常生活が少しずつ戻ってきて、ようやく北米にて本格的に動けるという思いです。学習の手引きとなるガイドブックも完成しており、高校や大学への教材として使ってもらえるよう働きかけます。

2015年に制作を開始して以来、長い間、広島女学院の同窓会の皆さまの篤いご支援をいただきしてきました。今年の4月には関東ブロックの役員の皆さまに東京にてお会いでき、まるで学校時代のように和気あいあいとお話できたことは私にとって大きなご褒美でした。

核兵器禁止条約発効後、第一回締約国会議がウイーンにて開催される2022年の活動に向けて、走り出します。変動が続く毎日の中で、広島女学院の同窓会という暖かいコミュニティは私にとって心のよりどころです。



## 「私と女学院」

湯浅はるみ (土井/高32、文日14)

いつも思い出す、♪丘の上の教会へ登る石畳、春は桜の花びら、手のひらに受けてのぼる、ほら、ディンドンディンドン♪……最後までいけないけれど、テンポがいいので、辛いとき、気を奮い立たせたいときに、口ずさむ賛美歌の一つです。

聞こえない私でも、みんなと一緒に歌う喜びを教えてくれた女学院には、嬉しかったこと悲しかったこと悔しかったこと、いろいろ想い出は尽きません。

生まれつき耳が聞こえなかった私は、当時は補聴器を付けていました。人の声を聞いても何を言っているのか判別が難しく、聾（ろう）の子たちはみんなそうだったけれど、言葉を覚えるのも話すのも普通より遅かったです。

(今では、人工内耳をして、少しは聴こえるようになりました。人の声まではわかりませんが、鳥の鳴き声、レンジの音、車の警告音などは聞きとれるようになりました。)

聞こえない故に小さい頃から私は集団で遊ぶのが苦手でした。お正月に母の実家へ行くと、大勢のいとこたちが輪になって遊ぶ中、離れの2階のお兄さんの部屋に逃げて漫画や本を読んだりするのが好きでした。サブマリン707とかゲゲゲの鬼太郎とか女の子らしくないものばかり。そんな私が女学院に入学したのは、しっかりと女学院の建学の精神にふれてほしいと母の願いからでした。

ろう学校から普通小学校に転入して2年、そして女学院へ行くことは、今までの聞こえない4～5人のクラス環境からマンモス学級に変わって、それから全く知らない学校に慣れることです。落ち着いて自分自身でものを考えられるようになるまでとても時間がかかりましたが、今では女学院から学び得られたものは多かったと思います。

私が女学院中学校入試を受けた時、他の受験生たちと別でした。保健室に用意された一つの机で

試験を受けたことを今でも鮮明に思い出します。

昭和49年、当時は障害のある生徒と一般生徒を分け教育するのが普通だった時代、ましてや聴覚

障害者。音声情報が耳に入らないというコミュニケーション障害を持つ重度難聴の生徒を受け入れることは、あまり前例がありません。「障害があってもこの学校で学びたいという者がいたら受け入れる」と当時の田中一郎校長の判断で、入学を認めてくださったと母から聞いています。

学校側にとってもどう対応したらいいか試行錯誤だったと今までの記録を読むと、幼く未熟だったなと恥ずかしく、こんなふうを考えてくださったのだとわかることがたくさんあります。先生や両親、クラスメイトたちの理解や協力、支援がなければ、卒業できなかったでしょう。全生徒の前で卒業の言葉をのべさせていただいた森匡世先生、「聴覚障害生と共に学んで」の本を発行してくださった学校関係の皆さま、改めて感謝したい気持ちで一杯です。

中学校、高校時代の私は、聞こえないことを周りに知らせ、どういった配慮をしてもらいたいかを伝えるすべを知りませんでした。お喋りのなかで何を言っているのかわからなくてもニコニコしてスルーしていた私は、先生を独り占めしていると思われたくなくて、なるべくみんなと同じように、目立たないようにしたかったのです。最初の一年はクラスに溶け込めなくて、ずいぶん両親や



先生たちを心配させたものでした。周囲のクラスメイトたちも、「聞こえない」私にどう接したら良いか、わからなかっただろうと思います。

しかし、聞こえない私に自信を持たせ、聞こえなくても聞こえないことをはっきりと伝えてもいいんだよと態度で示してくれたクラスメイトたち、先生と一緒に学ぶ楽しさ、友だちを持つ喜びをたくさん教えてくださった中学校、高校、大学の10年間は、私の精神的な基盤となっています。

女学院クラス会で、久しぶりに会う同級生でも、私にもわかりやすいように筆談してくれたり、口元をはっきり見せて話し掛けたりしてくれます。授業や朝礼の間、ずっとノートテークしてくれたり、賛美歌のリズムに合わせて指差しで教えてくれたり、私の耳代わりになってくれたクラスメイトたちからは、不満を言われたことはありませんでした。(あったかも知れないけれど、皆さん、優しい方ばかりでした。)

今では、手話通訳と並んで要約筆記者(文字通訳)という社会福祉事業の担い手がありますが、社会的に認知されるようになるのは、私が卒業する頃の昭和50年代後半になってからです。娘の大学には、ノートテーカーや手話通訳というボランティアの学生さんたち(大学が運営を支援している)がいるのを知って、時代が変わったものだと感心しました。

女学院大学でも音声認識機器(音声情報を文字化して画面に表示するもの)を使って聴覚に障害を持つ学生たちに目に見える情報を伝えるように配慮していると伺って、とても嬉しく思います。

週に一回の朝礼で学校全員が集い賛美歌を歌い、先生一人一人が個性的なのは、女学院の魅力の一つだと思います。古典の世界へ誘ってくださった森匡世先生(それがきっかけで日本歴史大好きな歴女になりました)、お姉さんみたいな吉田徳子先生、いつも朗読の練習に付き合ってくくださった清水よし子先生、怖かったけれど存在の大きかった沖田泰弘先生、カウンセラーとして話を聞いてくださった倉永恭子先生(常識として意見を言うてくださるのに反発ばかりしたけれど)、韓国へ被爆者慰問親善訪問にお連れくださった河本一郎さん、

聴覚障害の生徒としてではなく、一生徒として真摯に対応してくださった先生ばかりでした。

今は、私は同じ聞こえない仲間たちと香川県中途失聴・難聴者協会(昭和62年創立)を立ち上げ、年に4回の会報の編集・発行作業をしながら、全日本難聴者中途失聴者団体連合会の常務理事で忙しい日々です。会の主な活動の一つは、聞こえの福祉向上を求める目的で聞こえないことを知らせる「耳マーク」の普及です。公共施設や交通機関、病院や銀行などに耳マークの設置をしてもらうところが増えました。耳マークがあれば、相手に配慮をお願いする勇気を持てますと会員から言ってくれると、嬉しい気持ちになります。

そして、もう一つの活動は要約筆記者養成事業です。要約筆記とは話し言葉を文字で伝えることです。手書き、パソコン、音声認識、情報を文字で伝える手段はいろいろありますが、その技術を身につけるのは大変です。多くの難聴児や難聴者たちに文字情報を伝えようと多くの仲間たちと頑張っています。つい最近、女学院の友だちが要約筆記者養成講座を受講したと聞いて、とても嬉しかったです。

今では障害者に対する理解が進んで、「共生社会」という言葉をよく目にするようになりました。40年以上前に、女学院がすでに「障害者のために」ではなく、「共に」という精神で実践されていたことはすごい試みだったと思います。記録の「聴覚障害生と共に学んで」のタイトルにあるように、時代の先端を行くものでした。

時々、私の力は小さく、障害があることで悔しい思いをすることがよくありますが、そんな時に女学院で何度も歌った賛美歌を思い出します。

小さなかごに花を入れ

寂しい人にあげたらなら

部屋に香り満ちあふれ

暗い胸も晴れるでしょう♪

私の活動が小さくても、共生社会を築く土台の一部になるといいなと思います。

今回、回想という形で執筆の機会を下された女学院同窓生の関係の皆様へ厚くお礼申し上げます。

# ！ 東京支部発足 80 周年 ！

## 昭和時代の東京支部 伊賀栄子（田中／高女 29 回）

～ 広島女学院創立百周年記念誌より（1986 年・昭和 61 年）～

私が広島女学院を卒業して東京に参りましたのは大正 11 年 4 月。そして同窓会に初めて出席したのはその春。大岡山で幼稚園を経営していらした綿引様のお宅でした。

私の手許にある同窓会東京支部の古い記録は昭和 16 年（1941 年）からのもので、支部長は榎村良子様。一年に 1、2 回、東洋英和女学院の東光会館で同窓会を開いており、出席者は三十数名。

その後暫く戦争で記録はとぎれ、会員も四散し、戦後はじめて開いた同窓会は昭和 21 年秋、松本卓夫先生にご出席頂いて、伊賀宅で開きました。大森の近くに住んでいらした同窓生を数名招き、お茶菓子も不自由していた戦後の時代で、さつま芋を油であげて砂糖をかけたものを出した事を覚えております。

その後、昭和 23 年、洗足の小河原様宅を開放して頂き、3 年位続けて会を開いておりました。段々と会員も増したため、その後は銀座の教文館の 9 階ホールを借りて毎年、会を開くようになり、出席者も 40 名から 80 名余り、なかなか盛んになって参りました。会長は藤川静子様。

昭和 31 年 5 月、東京 YMCA ホールにて開催、出席者百名余。広島より広瀬ハマコ院長、元吉 潔先生にもご出席頂きました。

この年、母校の 70 周年記念事業として作製されていたゲーンズ先生の胸像のデッサンを拝見しに、彫刻家 坂手先生の下落合のアトリエに、広瀬先生を先頭に数名の同窓生が伺った事も楽しい思い出の一つです。

この年の 10 月、母校の 70 周年記念式典には東京支部より 16 名出席いたしました。

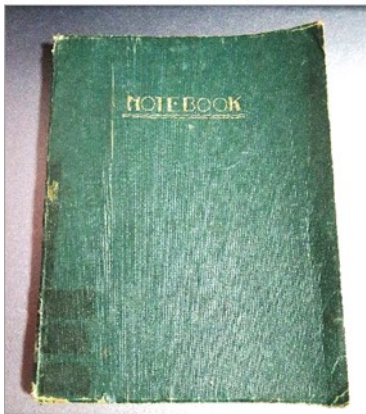
昭和 32 年 12 月、会長の藤川様が広島にお帰りになり、その後は伊賀栄子支部長。

以後、毎年春にはホテルなど会場を変えて総会を開き、出席者は 60 名から 100 名内外。

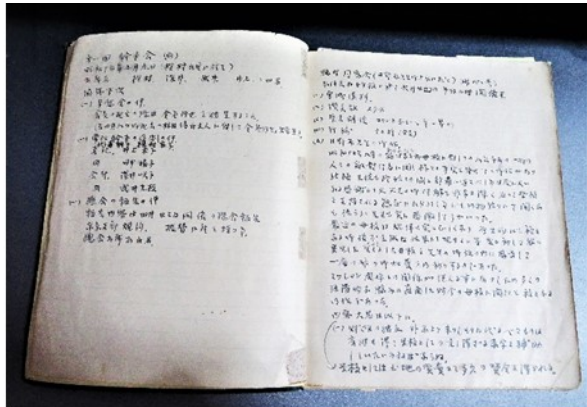
東京地方の会員数が多くなったため、東京、神奈川（小野光子支部長）、千葉（山崎静江支部長）、埼玉（丸小羊子支部長）の 4 支部に分けました。年 1 回合同総会を開き、当番制にして毎回各支部交替でその任にあたる事しております。

現在、東京支部在籍 700 名内外。1 年間に 40 名内外の出入りがあり、名簿の整理に追われております。総会の時には皆様に往復ハガキの案内状を出しますが、住所不明で返送されて来るものが東京支部だけで 50 名余り。悩みの種です。

総会の時には毎度本部より、広瀬元院長、河村瑠璃会長、本部の幹事 2、3 名にご出席頂き、感謝いたしております。



議事録ノート（昭和 16 年～42 年）



第 1 回幹事会議事録（昭和 16 年 5 月 9 日）

東京支部の第1回総会は1941年(昭和16年)4月23日、千駄ヶ谷市民幼稚園で開かれましたが、その後約50~60年経った頃の様子が書かれた元支部長の山本佳永子(秦知子)さんの記事により、活動が軌道に乗るまでの先輩方のご苦労が偲ばれます。

## 平成時代初期の東京支部 山本佳永子(秦知子/高女24、専英26)

東京支部ニュース第23号(1999年7月発行)「東京支部との十年」より

10年余り前、当時の濱田嘉代子支部長から支部の手伝いへのお誘いがありました。その頃の東京支部は有志の方々の大変な努力によってやっと会員名簿ができ上がったという状態でした。

東京在住の同窓生が千人にも膨れ上がった東京支部の活動を、それまでと同様に年1回の食事会だけで済ますことは困難になってきていました。母校から遠く離れた支部にとっては会場確保だけでも容易ではない上、食事会に対する不満の声も聞こえるようになっていました。出来上がった名簿をもとに、ご意見を伺ったり、会費納入をお願いしたりしたいと思っても、手元にある活動費はわずかでした。千人の会員に手紙を出すには、郵送料だけでも8万円もかかるのです。「有り金をはたいてしまってよいものかどうか」、「でも、とにかく動き出そう」そんなところから、私と東京支部との関わりは始まりました。

一番安い封筒を買い、封をする糊は小麦粉を煮て作り、用紙も玉川平安教会や碑文谷教会からいただけるものは全て頂戴し、ニュースの印刷は山口泰子元支部長のご主人が教会の輪転機を拝借

してやってくださいました。

それから10年の間に、講演会、映画会、演劇鑑賞会、落語鑑賞会、パーティー、小規模な学習会等々試行錯誤を続けてきました。しかしそのいずれも参加人数は決して多いものではなく、反省会では、会員全体を対象にした企画としてふさわしいかどうかということが、いつも問題になりました。そうした積み重ねの結果、結局、一番平等に会員に行き渡るものとしては、会報が良いのではないかという結論に到達しました。

家庭にファックスが行き渡り、ワープロ、パソコンも何人かが使えるようになりました。名簿管理システムは一流企業並みになり、年会費納入者も増え、会計も少し楽になりました。そうした支部の成長の陰には役員のご主人方の積極的な協力があつたことも忘れることができません。

同窓会も、時代の変化と進歩に振り回されながらも、その時々同窓生達の努力によって続いて来ました。私達もその歴史の一部に連なる大切な人間として同窓会に関わり、母校を支えて行くことができればと思います。

### ~~~~ 東京支部の活動の歴史(追伸) ~~~~

「東京支部ニュース」を1990(平成2年)発行の第1号から辿っていきますと、クリスマス礼拝は、1990(平成2年)から賀川豊彦記念松沢資料館や神田三崎町教会などに、1997(平成9年)からは銀座教会に、2013年以降は池の上キリスト教会にもお願いしておりますが、特に銀座教会には「夏雲の集い」を含め、長年お世話になっており、ご厚意に感謝しております。

1988(昭和63年)には、75歳以上の方々対象のシニアパーティーが開かれ、その後、対象を70歳以上に下げて1997年まで8回開催し、毎回20名前後の参加者がありましたが、1998年にパーティーを休止し、その後は、80歳を超えても会費を納入して下さる方々へ感謝のカードをお送りしています。

2007(平成19年)には、東京支部に大きな功績のあった山本佳永子(秦知子)さんを偲ぶ会を銀座教会で

開き、翌2008年には銀座教会大礼拝堂で「秦知子先生記念コンサート」を開催しました。

2012(平成24年)からは、毎年、同窓生の講師による薬膳、メイクアップ、合唱などの講座を開き、30名前後の参加者がありましたが、2014年に若い役員の主催で「パクチーだらけのクリスマスパーティー」を開いたのをきっかけに、翌年から毎年、食事会とツアーを組み合わせた企画を持ち、毎回40名前後の参加者がありました(屋形船、皇居東御苑、江戸東京博物館、迎賓館赤坂離宮、豊洲市場見学等)。

時代の流れもあり、いつになっても試行錯誤の連続ですが、コロナ禍でも、クリスマス礼拝と、関東ブロックの「夏雲の集い」は、緊急事態宣言の合間で開催を許され、「東京支部ニュース」も予定通り発行できています。また笑顔でお目にかかれる日を楽しみに。(坂下)

## 7/3、夏雲の集い 2021に参加して

川名志穂（山田/高59）

梅雨空に太陽が出た午後、久しぶりに銀座教会の階段を上りました。初めて訪れたのは数年前、遠くなっていくヒロシマに不安を感じたからでした。あのときと同じように明るく迎えてくださった先輩方と言葉を交わし、手を引かれ礼拝堂へ。

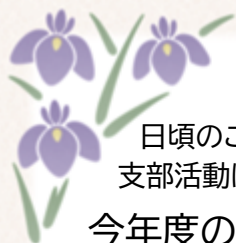
聖書には「赦しなさい」と在るけれど、そこには「あなたは赦されている」ことが前提として在る。そんな高橋牧師のお話しが腑に落ちたのは、礼拝後のこと。一人の先輩の、生き残ったつらさに触れたときでした。

シベリア抑留を経て弟の被爆死を知り、故郷で描き続けた四國五郎氏も、自分は被爆者ではないことを気に留めながら、絵本「おこりじぞう」に至ったとか。長男の光氏の講演のDVDの中で印

象的だったのは、四國氏の「つまらん奴に怒るな、戦争を起こす人間に対して本気で怒れ」という言葉。ヒロシマを強く想うからこそ、みんな不安も抱えながら自分の方法を探っていく。

わたしは今、My Little Words about Hiroshima × You Project を主催しています。東京でも自分のなかにヒロシマを持ち続けることはきっとできると、今は信じています。

終盤には、元支部長の方から、この集いの成り立ちを伺う機会もあり、聞き入りながら、その若々しい先輩が被爆者だと知って一同びっくり。思わず声をあげた瞬間、女学院の賑やかな教室に戻ったようでした。



日頃のご支援・ご協力に感謝いたします  
支部活動は皆様の会費に支えられています

**今年度の会費(2,000円)の納入を**

お願い致します

80歳以上の方もお気持ちがありましたらお願い致します

振替用紙への電話番号・メールアドレスのご記入に

ご協力ください

銀行振り込みもご利用いただけます

三菱UFJ銀行 高田馬場支店

普通預金 0473771

広島女学院同窓会東京支部



### 伝言板

■Facebookで情報を発信しています。「広島女学院同窓会関東ブロック」で検索してください。ページに「いいね！」して頂くと、情報を確実にお届けできます。

■東京支部にメールアドレスを登録して頂くと、リアルタイムで情報をお送りします。ご希望の方は東京支部宛にメールをお送りください。これまでの登録者が190名を超えました。なお、携帯の場合、パソコンからの受信を拒否する設定になっていることがありますので、確認をお願いいたします。

東京支部アドレス  
gaines\_tokyo@yahoo.co.jp

# みんなの広場

## 会費の振込用紙通信欄や 80歳以上の会費納入者の方へお送りした暑中見舞いカードのお礼状から

■この未曾有の危機の中、ご苦労様。私は、同級生の90%は見えていない世界で、人生の不思議に感謝しながら日々を送っています。暑中見舞いのカードはなんと爽やかな図柄。一枚一枚お心込めたこまやかな作業。銚子の海を思い出し、心癒されました。

寺井伊都子(桧垣/高女 52)

■会報を見ると昔の女学院を思い出します。

野邊英子(藤原/高女 52)

■東京支部の方々には何時も温かいお心遣いを頂き、有難うございます。88歳になりましたが、恵みにより元気に過ごしています。8月6日も近くなり、世界の平和を祈ると共に、コロナ禍が終息してまた楽しい集いが保たれるようになることを願っています。

柏木 惇(福富/高 3)

■8月6日には広島に行き、町を歩きながら”祈り”を捧げてきます。5、6年前に知り合った女学院高校生が米国の大学に留学し、9月からカリフォルニア大学大学院に進学して”核”の問題について学ぶそうなので、会って期待と激励の言葉を伝えるつもりです。

山田玲子(石川/高 5)

■いつの間にか86歳。私の記憶では高校生のままなのに…。早くコロナ禍が終息するのを祈るばかり。

佐々木タカコ(佐々木/高 5)

■思いがけない厳しい日々!!皆様にはいかががお過ごしでしょうか? コロナ、あげない、もらわない努力の日時といたしましょう。

大之木都茂美(大之木/高 6)

■栄光在主。同窓生の方々の平和への活動と信念を読ませて頂き、それぞれの場で語って行きたいと思えます。皆様のご奉仕も感謝申し上げます。

松尾みどり(吉田/高 7)

■コロナ禍の中、届けられた支部ニュースに一輪の花が咲いた様です。有難うございました。

佐々木典子(桑田/高 9、短大 8)

■いつもありがとうございます。コロナに負けない様に日々、”今” ”今” ”今”を大事に生きております。

どうぞお元気で、笑顔でね!!

鈴木智子(千葉/高 11)

■横浜から引っ越して参りました。よろしくお願ひいたします。

伊藤郁子(宮堂/高 11)

■とても素適な暑中見舞いを有難うございました。拝見しているだけでも身も心もすがすがしい気持ちになります。

村上宏子(田島/高 12、短大 11)

■丸木位里さんのライブ配信見せて頂きました。今後よろしくお願ひします。

松岡育子(小里/高 13、大英 13)

■東京と広島を行き来しているので、広島支部にも入っています。

二宮悠子(伊藤/高 17)

■中味の濃い支部ニュースを有難うございます。皆さん、それぞれにすばらしいご活躍をされていて元気を頂きました。

佐藤美代(長尾/高 23)

■大変な時が続きますが、皆様元気に乗り越えられますように。

佐崎さゆり(山本/高 45、文学部 27)



役員の松岡理乃さん(木沢/高 30)の手作りの立体的な暑中見舞いカードを、80歳を超えても会費を納入して下さる方々6名にお送りしました。

# クリスマス 礼拝

12月10日(金)

午後1時30分～3時30分(受付開始1時)

日本キリスト教団 銀座教会

東京都中央区銀座 4-2-1  
JR有楽町駅 中央口より徒歩5分  
東京メトロ銀座駅 C6 または C8 出口よりすぐ

礼拝・説教：高橋 潤 牧師

～ 手芸作品のミニバザーもあります ～

感染対策はしっかりいたします。マスクをご着用ください。  
緊急事態宣言下となった場合は中止いたします。

問い合わせ

[gaines\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:gaines_tokyo@yahoo.co.jp)

東京支部



## ★ 手芸部活動再開 ★

11/7(日) 10時 副都心線 北参道駅改札集合

簡単なマスクケースを作ります

手芸がお得意でない方も大丈夫♪

スリッパ、カッターナイフ、定規をお持ちください

問い合わせ：東京支部 [gaines\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:gaines_tokyo@yahoo.co.jp)

## 編集後記

❖今号は東京支部発足 80 周年記念号として、支部の歴史を振り返ってみました。役員会ではもう来年の企画の候補も挙がっています。素敵な企画が実現しますように！

❖ファーストレディーになられた岸田裕子さん(和田/高 35)を応援させて頂きましょう！